

第 6 回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事録

開催日時・場所	日時：令和 6 年 6 月 27 日（木）10:00～12:00 場所：赤名農村環境改善センター 小会議室
議 事 次 第	1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 議 事 （1）第 3 次計画の施策・取組について【資料 1】 （2）総合戦略重点プロジェクトについて【資料 2】 （3）基本計画のページ構成・掲載の内容の確認【資料 3】 4. 閉会
配 布 資 料	・議事次第 ・委員名簿 ・第 5 回策定委員会_議事録 ・今後のスケジュール ・資料 1：施策一覧表（案） ・資料 2：総合戦略（＝重点プロジェクト）の策定について ・資料 3：基本ページの構成（案）



【出席者名簿】

番号	所属団体組織等		委員	備考
1	飯南町自治区長連絡会	会長	石橋 洋司	
2	飯南町社会福祉協議会	地域福祉課長	吾郷 由美子	
3	飯南町商工会	事務局長	加津山 幸登	欠
4	飯南町農業委員会	会長	今岡 和登	
5	飯南町 PTA 連合会	副会長	板垣 正行	
6	山陰合同銀行	赤名出張所所長	勝部 美穂子	
7	山陰中央新報社	編集局次長	万代 剛	
8	島根県中山間地域研究センター	主任研究員	東 良太	
9	島根県情報システム推進課	CIO 補佐官	林 正知	欠
10	住民委員		大島 孝子	
11	住民委員		影山 和典	
12	住民委員		芥川 優子	
事務局	まちづくり推進課	課 長	藤原 清伸	
		課長補佐	前川 由紀	
		主 幹	岡田 祐也	
		主 幹	森山 雄三	
	(株)コスモブレイン (業務委託業者)	代表取締役	大内 智弘	
		技術部計画課 技術員	松谷 蒼馬	

【議事録】

1. 開 会

2. 委員長挨拶

石橋委員長	本日は第6回目ということで、皆様方、昨年来色々と頑張っていただき、お疲れも出ていると思うが、もうしばらくなので、よろしくお願いいたします。 大体1か月間隔で開催されているということで、いい具合に前回の話した内容を忘れてリセットされている状態だと思う。新たな気持ちで意見を出してもらいたい。6回目になると、持ちネタが底をついてしまい、何を言っているかわからなくなるような頃ではないかと思っている。私も持ちネタが尽きてしまったので、皆様方に色々と意見を出していただきながら、会を進めたいと思っている。 本日は2時間で、内容的にはボリュームがあると思うが、説明を聞いていただいて、気になる点があれば遠慮なく質問や意見を述べていただきたい。ある意味気楽に進めていただきたいのでよろしくお願いします。
-------	--

3. 議事

(1)第3次計画の施策・取組について

(事務局説明記録省略)	
影山委員	全体的な質問だが、施策の内容は現行計画から継続のものや新規のものもあるが、現行計画のもので主な取り組みの記載がないところがある。施策の内容について、今後、取り組みや予定を共有してもらう機会はあるのか。 現行計画で主な取り組みの記載がないのはどうしてなのか。
事務局	主な取り組みの記載について、現行計画では構成上、施策と主な取り組みが紐づいた形になっていなかった。今回は当てはまるものを一時的に入れた状態になっている。新しい計画に載せる取り組みについて、これから役場内で作業することになっているので、次回以降に示せると思う。 資料3の右ページの「施策の内容」の部分に①から④まで施策の内容の記載があるが、次期計画では施策の内容に対応した主な取り組みを掲載することを想定している。どのように入れていくかは検討中であるが、作業が終わればこのレイアウトにあてはめた状態でお示しできると思う。
石橋委員長	何年か前から小さな拠点づくりということで、各地域の公民館単位で話し合いや計画づくりをしているが、正直どうということなのか理解していない人が多いのではないか。私自身も腑に落ちないところがあり、「協働で進めるまちづくり」の施策として小さな拠点がでてきたが、「安心して暮らせる環境づくり」には一切小さな拠点という記載がない。小さな拠点について、施設整備的な説明はなく、住民の話し合いの単位とされている感じがある。多くの住民が小さな拠点と聞くと、単に話し合いの場ではなく、インフラなど施設も含めた小さな拠点というイ

	メージを持っているのではないかと。小さな拠点についてどのように考えているのか、この度の計画にどういう入れ方をするのかをお聞きしたい。
事務局	現在、島根大学の作野教授にまちづくりのアドバイスをいただいているところで、今年度は定期的な会議を開いて進めていくこととしており、4月から検討を始めている。 施策一覧表（案）には盛り込み切れていないところがあり、現在はソフト的な部分を記載している。ご意見はコンパクトシティのようなイメージだと思うが、飯南町としてどう考えていくのか、もう少し時間をいただきたい。
万代委員	全体的に飯南町らしさの打ち出しが弱いのではないかと思います。これから多くの町民の方に読んでもらって、意識を統一して取り組んでいこうという感じが弱い気がする。 施策については、スクラップが少ないと思う。県の創生計画の政策に引っ張られ飯南町として不要な施策も並べられている印象。 個別の施策についてだが、No.8 教育の情報化の推進について、教育データの可視化とあるが、どのようなデータをどのように可視化して、どのような子どもを育てるのか。本日は担当課がいないので答えは別の機会で差し支えないが教えて頂きたい。 No.29 担い手受け皿組織との連携（林業）について、地域商社というのはどのようなところを想定しているのか。 No.39 ブランド化の推進について、前回の策定委員会で「くろもじ」の話で盛り上がったと思うが、「くろもじ」はどこにいったのか。「くろもじ」はお金になると思われる。産業としても取り組んでいくべきだと思うが「くろもじ」が記載されていないのは何故なのか。 No.54 住環境の整備について、空き家に関する記載がないが、飯南町は空き家問題を抱えていないのか。空き家の活用はどうなっているのか。 4-5 自然環境の保全について、全体的に書きぶりが弱すぎる。これがベースにあり、ここからスタートして色々な施策に行くべきだと思う。 石橋委員長が先ほど言われたが、小さな拠点というのが完全に浮いている。小さな拠点というのは、すべての施策に反映されるような内容だと思うので、取ってつけたように小さな拠点といわれても全くわからない。項目の立て方から考えてもらいたい。
事務局	今回はすぐに回答できないところもあるが、率直に思われたことでも結構なので、意見をいただければと思う。ご意見は資料に反映していきたい。
勝部委員	No.29 担い手受け皿組織との連携（林業）について、地域商社との連携が気になる。2次までの施策の内容は設立を支援すると記載しており、具体的な表現がされているが、3次では連携して担い手の受け皿を確保するという言葉に変わっている。町内で設立を目指すものなのか、受け皿を確保するために既存の商社との連携を含めた広い意味での表現に変更したのか。

事務局	現行計画にもとづき、林業に関する事業を国の補助金などを活用して進めており、株式会社飯南・縁の森という地域商社を設立したが、積極的な動きがないので、認知が低いと思う。これをもう少し進めていくという意味で表現が変更されたと認識している。再度、表現を確認する。そういう形で進んでいるという認識で理解してもらいたい。
東委員	各課が、別個バラバラに動いていくところを重ね合わせていくことが県でも必要だと思っている。3次計画に施策として載せないにしても、役場もこれから職員が減っていき、財政的にも厳しくなる一方の中で、重ね合わせをどのようにしていくか考えを持っておく必要があると思う。 具体的には、色々な地域実態調査があると思うが、住民側からしたら似たような調査票が送られてくることがかなりある。施策ごとにそれぞれ別で調査をしているところがある。調査も重ね合わせて、設問は多くなるかもしれないが、一緒に調査をしていく等、部局間の連携をどう進めていくのかということも次の計画の中には入れていく必要があるのではないかな。 ファンやサポーター、関係人口という言葉が施策一覧表（案）にかなり出てきている。森林セラピーや町の観光など、飯南町のファンをたくさん作っていくことは重要だが、ファンを作った後にどのように関わっていくのかをもう少し踏み込んでおく必要があるのではないかな。町出身者の方と関係人口の方をどう分けるのか、一緒にするというのもあると思うが、地域の外の人とどのように繋がっていくのか。外部人材の人と繋がっていくことはとても大切だと思う。 能登半島の地震は2次避難で地域を離れて、子どもの家に避難される方が多かった。主に町出身者の方との繋がりを今のうちから、ある程度、強くしておくことも必要だと思っている。災害が起きて、急に繋がりができるわけではないので、そういった人との繋がりを施策や事業の中で飯南町は大切に考えています、というところを踏み込んで言葉にできたらよいと思う。
事務局	未完成の資料ということで、整理しきれていないところもあり、それぞれの課が同じようなことを書いているところがある。このようなところはこの計画で整理することも必要である。事業の整理と合わせて今後、作業を進めていきたいと思っている。 関係人口との今後の関わり方について、もう少し先を見据えた表現をとということだが、この計画の中でどこまで書いた方が良いのかということもあると思う。意見としてはその通りだと思うので、意識して検討していく。
大嶋委員	先ほど、万代委員が言われたように飯南町らしさについて気になる点がある。この季節は、山の緑や水田の緑が相まって目を洗うような景色があることが、飯南町らしく、また見ていただきたいと思っている。 農業について、米だけでなく、他の作物をつくるのはどうだろうか。農家の方のご苦労もわからないのだが、玉ねぎを作ったり、畑のようになるイメージ。 飯南町のブランド米ということを挙げておられるが、田んぼを皆さんが残すような取り組みを取り入れてもらいたいと思う。

石橋委員長	おそらく、水田園芸の話だと思う。水稻だけでは単位面積あたりの生産性が低いので、生産性を上げる目的だと思う。町内でいえば白ネギを作るなど、島根県からは6品目を指定されているが、そういったものに組み合わせていくという考えだと思う。人手の確保や設備投資もしなければいけないので、収益的には地域差があると思う。すべてが畑地化するのは現実的ではないと思う。水田の風景はこれからも継続すると思われる。
今岡委員	飯南町は他の地域と比べ、水田園芸がかなりされているが、飯南町の現状を見たときに、まず人がいない。各地区で法人ができているが、その法人もほとんどが高齢者である。ほとんどが70歳前後で経営されており、若手の法人というのはいない。この計画は10年計画だが、10年経ったら、いくつかの法人はなくなっていると思う。それだけ農業人口がいない。 計画は確かに良いものだが、どのようにして担い手を確保するなど、そこまで踏み込めていない。そこまで踏み込んで、初めて施策になると思うが、上辺だけの表現で書いてある。その担い手の生活を誰が保証するかということもある。例えば、法人に来てもらった人に保証をしなければならない。地域の営農組合などは利益が上がっているわけではない。赤字ギリギリやあるいは赤字で経営している法人がほとんどである。 飯南町で水稻を頑張っているのは、1番手が掛らないからである。飯南町は寒暖差のおかげで米は良い評価を得ているが、農地が少ないので収穫量が少ない。もっと面積があれば都会の市場へ出荷できるが、毎月何トンという契約をされても、それを出すだけの米ができない。なのでブランド米として単価を上げて販売し、農業をしている方の収益を上げるやり方を現在進めている。しかし、収穫できる量が少ないのでブランド米として認めてもらえない。 島根県では仁多米が有名だが、仁多米の価値は飯南町の米の20年、30年先を進んでいる。実際に飯南町の米を食べた方は仁多米より美味しいと言われるが、収穫量が少ないから出せない。施策の中で、産業振興や農業従事者の育成について記載してあるが、どのようにして育成するのか、どうやって人を連れてくるのかが記載されていない。読んだ人には納得してもらえが、実践する人はどうやればいいのかわからない。飯南町は高齢者ばかりなので、農業が続けられなくなればやめるしかないというのが現状である。 10年後は農業人口がかなり減っていると思う。トップセールスで(株)Hokで町長の写真付きで米を販売してもらっているが、米を維持するためにはみんなが協力してやっていかなければいけない。米を植えた後は田園管理が大変である。今の時期は毎日草刈りをしている時期で草刈りだけで1日が終わる状態である。若い人は1日作業しても大丈夫だが、高齢者になると、午前中と午後で時間を分けて休憩をして作業する状態になるので、人手が足りないことが1番の問題である。人材育成についても、手段を考えてもらいたいと思う。
芥川委員	まちづくり推進課が開催している人材確保情報交換会に参加した。地域の高校の卒業生の進路の話などを聞かせてもらい、雲南のハローワークの方もおられ

	た。有効求人倍率が高いことに対して求職者数がとても少ない。これは毎年変わらない。私は建設業でいくつか求人を出していたが、求職者の方は自分が出している求人を全く見ていない状況が数値として出てきた。それぐらい、地元の事業所や企業が求める人材が確保できていないというのは、皆さんご存じだと思うが改めて痛感した。高校生の就職者数がとても少ないので、地域で取り合っている状況で、現実を突きつけられて帰ってきた。その時、ハローワークの方が言われたが、人が足りないというのは分かっていることであり、求人を出す企業側としてもフルタイムで働いてくれる人を求めがちになるが、フルタイムで働けないが部分的に働ける人の求人を出す。そういうことが求められる時代になったのではないのか、という話を聞いた。 担当課間の連携という意見があったが、例えば林業が衰退すると災害が起きることや、災害が起こると建設業が動くなど、すべてが繋がってくると本日の話を聞いて思った。人手が少ないところに人を連れてくることは、すでに難しいこと。本日出席されている方の中にも、農業をしながら他の仕事をしているという状況だと思う。新しく人を連れてくるということ自体が難しいのであれば、施策の中でも連携をとれる部分を明確にしないと見ている町民の方もリアリティがないと思う。新しい人を連れてきてくれればよいが、飯南町に根付くのも難しい。今いる私たちにできることが伝わるような施策が良いと思った。
板垣委員	先ほど芥川委員も言われたが、1 番欲しい若者の考え方が大きく変わっており、私たちには想像がつかないような思考になっている。計画を考えている私たちが、今の人達が求めていることをうまく盛り込んでいるのかと感じた。 イメージの話で申し訳ないが、説明を聞いて、役場の皆さんが飯南町の持っている全ての物を網羅して一生懸命こうしていこうというのを考えているの分かるぐらい書いてあるが、持っているものだけでなんとかしようというイメージがある。これ以上飯南町には何も無いのかと逆に不安になる。今の人たちの考えを取り入れたら、この施策も他にこういうことが考えられるのではないかな。あるいは外のものを利用すればもう少しうまくできるのではないかなど、そういう視点のものがあっても良いと思った。 具体的なことを言えば、No.33 企業誘致の推進があるが道路が整備されていないと企業は来ない。松江道ができてから負け組のような感じになっている。既にアクションを起こしているかもしれないが、新しいものを作ろうという雰囲気がない。例えば、他の地域に働きかけて道路を繋げることを視点において企業誘致を進めるという案があっても良いと思った。 森林セラピーも良いものを持っているのに、今あるものを守るような施策しか記載されていない。例えば、PR 方法やブランディングの方法などが施策に盛り込まれると、住民の方に大切に思っていることや売り込みの手法などが分かってよいと思った。 今持っている手駒で、継続するものや新しくすることや意見を言われたから書いておく、という雰囲気が伝わってくる。他のものを活かす等、色々な視点を盛

	り込めばよいと思った。
吾郷 副委員長	全体的に中間評価の意見やヒアリングの意見が反映されていると思いつつも、施策の内容が具体的に記載してある部分や、おんぼらと記載されている部分が混ぜ合わさり、そこが飯南町らしくないと思う。もっと細かく飯南町らしさを出して、他の地域の計画とは違うことを文言から変えていけば飯南町らしさが出てきて、住民の方にも理解してもらえと思う。 例えば、No.27 農地の保全について、猟友会を中心に捕獲体制を強化するとともに、担い手不足の解消に努めると記載してあるが、どのように解消に努めるのか。No.9 多様な教育ニーズの対応について、特別支援が必要な児童の放課後や長期休業中の受け入れ体制の検討とあるが、具体的にどうやって検討するのか。そういったところが分かりにくいので、今後もう少し踏み込んで、飯南町らしさを盛り込んだ文言にしてほしい。 ICTを進めていくと思うが、飯南町らしく人対人の関わりなど、コミュニケーションを大切にすることや、No.9 多様な教育ニーズの対応について、不登校・不登校傾向の児童生徒に適した居場所の確保と学習支援体制をつくるとあるが、現在の学校は昔と違い不登校気味の子どもに対しての配慮や対応が寄り添ってきていると思う。そういった良いところも施策の中に盛り込んでもらおうと、住民の理解も深まっていくと思う。
事務局	書きぶりの統一感がなくて申し訳ない。飯南町らしくしたいとは思っているが、項目が100もあるので、どこまで書けるのかというのは限界がある。統一感を持たせつつ、できるだけわかりやすいようにする。どこまで書くということについては、また検討する。総合振興計画が最上位の計画になるので、総合振興計画に記載していないからやらないというわけではない。計画に基づいて、さらに具体的に個別の計画を作る場合もあるので、ここで拾えない部分は、そういったところで拾えるようにする。
石橋委員長	人口減少に歯止めをかけることや就業者を維持することなど、色々な問題や課題があると思うが、やはり人口は減っていくと思う。学校の生徒や地域数も減ってくると思う。色々な部分で社会や地域が縮小していくことは避けられないと思う。縮小することに対して、どのように施策を打つかという視点があってもいいと思った。この計画のメインとして盛り込むのは勇気がいる部分だと思うが、長い目で見ると考えていけないといけない部分だと思う。その方法については、考えがあると思う。 私の考えを一言で言うのであれば、個の力を逞しくすることが1番大切だと思う。行政サービスに頼りすぎると、個が弱くなる。行政サービスやいろいろな地域の課題に対応してもらい、昔に比べると充実してきたが、地域に住んでいる人の逞しさがなくなってきたということを感じている。行政側としては、サービスの拡充などに取り組んでいけないといけないと思うが、並行して個の強さ、喧嘩が強いという意味ではなく、生きる強さ。長い目で見れば学校教育も一

	緒だと思うが、そういった視点も1つ必要だと感じたので、これを頭の隅においてもらいたい。
--	---

(2)総合戦略重点プロジェクトについて

(事務局説明記録省略)	
石橋委員長	資料2の3.飯南町の人口対策における課題の修正特化係数とあるが、農業5.7、林業27.3とあるがということなのか。
事務局	今日は資料を持ってきておらず、厳密な定義とはいえないが、その産業の全国の平均的な稼ぐ力に対して、町が持っている稼ぐ力ということ。総量ではなく割合で偏差値に近いようなイメージである。
影山委員	3.飯南町の人口対策における課題について、産業、出産・子育て、まち、人の流れとあり、4.総合戦略の取組目標に図があるが、飯南町としては仕事や職場が1番という考えなのか。今後の考え方の基準にするために教えてもらいたい。
事務局	町としての考えは、これから具体的に進めようと思っている。この資料は案として見てもらいたい。今後、変わるかもしれないが、もちろんこれも大事だと認識しているので、皆さんの意見を聞いて、重点プロジェクトとして、町の考えも入れ、絞っていくので、本日は参考という形である。
東委員	先ほど、石橋委員長が個の力をたくましくするといわれたが、私だったらどのように答えるのかなと思いつた。人が減っていく中で人口を1つの指標、ものさしとして今まで見てきたと思う。これからものさしで測ることができないという中で、私が思ったのは、関係性や繋がり、共感や人を思いやる気持ちが1つの価値、ものさしになると考えた。 石川県の能登の地震に対して復興計画が示された。スローガンは「能登が示すふるさとの未来」。地域とふるさとの関わり方で、Uターンしてくれるのは1番いい話だが、なかなか難しいというところで、二地域居住も含めて、いろいろなふるさとの関わり方を石川県として、奥能登として、提示していくと言われた。もちろん帰ってきてほしいというのはあるが、なかなか帰れない人については、週末や田植えや稲刈りの時期だけでもいいから帰ってきてほしいということを示された。 今回、人の流れというところで、飯南町に戻っていた層が減少して飯南町に戻らない状況である中で、もちろん戻ってくることが1番いいが、事情があり戻れないという中で、関わり、働きかけをしていき、何人かは帰ってきてくれるが、二地域居住やふるさと納税など、そういう関わり方もあると思っている。関わり方を提示していくことがとても大事だと感じている。 能登はもともと人口減少傾向にあったが、震災によりにより人口減少が30年は進んだ。30年先の未来の人口が、正月の地震で一気に減ってしまった。減った中で亡くなられた方もいるが、多くの方は地域の外に出ていっている。そうい

	ったことを考えたときに、今のうちから、住んでいる人はもちろん、出ていった人たちに対しての新しい関わり方を提示していくということは大事だと考える。 今回総合振興計画に関わらせてもらっている中で、他の市町村の計画も見ましたが、出ていった人に帰ってきてほしいやリターンしてほしいというキーワードはあるが、帰ってこなくていいので関わってくださいとまでは言わないが、もう少し広く関わりを持ちたいという話ができたらよいと思う。
吾郷 副委員長	未来へつなぐ仕事づくりの若者が就業したくなる環境づくりとあるが、多くの企業が収入や働きやすさ、働きがいを示しているにも関わらず来る人がいないということは、大企業を飯南町に誘致するしかないと思う。今ある、福祉や土木の魅力は発信していると思うが、若い人たちが就業したくなる環境づくりは難しいと思う。順位は決まってないと言っていたが、住み続けられるまちづくりが1番上に来ると私は思う。
石橋委員長	総合戦略については、まだ内部で検討されてないので、今出た意見を参考にしてもらいたい。優先順位をつける方法もあると思うので、検討してもらいたい。

(3)基本計画のページ構成・掲載内容の確認

(事務局説明記録省略)	
板垣委員	今は、字が多いと読まれないというのが基本になっている。私も字がいっぱいになると見なくなってきている。バランス的にはこういうバランスでよいと思う。フォローの部分だが、資料編はつくのか。
事務局	委員の名簿や規約、会の開催履歴など、必要であればデータ等も掲載する。
板垣委員	パッと見たときにこれぐらいのボリュームだとわかりやすいと思う。字ではわかりにくい部分があるので、漫画やイラストなどがあった方がよいと思う。漫画やイラストを使うのであれば、現在の困っている状況のイラストと計画を通し改善された状況のイラスト等を掲載したら、より一層わかるのではないかと思った。
万代委員	デジタルの連動で動画なども考えてみたら良いと思う。私も板垣委員とは同じ意見で、漫画を取り入れたらよいと思う。 基本施策に対し4つの施策がぶら下がっており起承転結のような感じになっているので、イメージの部分に4コマ漫画やビフォーアフターのイラストを掲載して、その漫画を読めば施策が分かるような流れがあると良い。基本施策によっては10個ぐらい施策がぶら下がっているものもあるので、すべてがそういうわけにもいかないが、1つ1つの基本施策にストーリー性を持たせ、イラストや漫画をまず読んでもらうということが大事だと思った。
影山委員	最近色々なところで同世代の方と話をすると、日常生活の中で役場は遠いという意見が出る。各地域に担当職員がいて、その方たちとも話はするが、話す内容は行政のことではなく普通の世間話なので、真面目に考えるときがないという話をする。

	ページの中で「役場が取り組む」という項目と「私たちができる」という項目があるが、2つに分けられていると、役場は役場、住民は住民のような感じになる。例えば下の方に、役場と私達が一緒にやることのようなコメントがあっても良いと思った。
石橋委員長	レイアウトについては本日の意見を参考にしてもらい、組み立てをしてもらう。字を読むことが好きな人もいれば、イラストや漫画を喜ぶ人もいるので、すべての方の嗜好にあったものというとなかなか難しいと思うが、できるだけ多くの方に目を通していただけるような形になればいいと思う。

4. 閉会

事務局	次回の会議日程は、事務局の作業の関係でまだ決まっていないが、7月下旬から8月上旬のところで考えている。候補日が決まれば皆様の予定と合わせて調整させてもらう。
-----	---